

学校運営協議会委員

会長 山元 薫 (静岡大学准教授)

副会長 杉浦博(琴平区長)

関澤 新一(株式会社 大一セラム 代表取締役)

菘 威頼(株式会社 アサギリ 代表取締役)

滝浪 香(令和4年度 PTA 会長)

遠藤 久仁子(富士宮市社会福祉協議会 主幹) 欠席

教職員 滝尾 彰彦(校長)

上村 一成(副校長)

小花 友梨(部主事)

山下 憲市(高2学年主任)

校長あいさつ

今年度最後の学校運営協議会、参加の皆様の御意見を頂き、よりよい学校経営につなげ、来年度に活かしていきたい。

副校長より報告

農園芸班『宮コロ』SDGsスクールアワード教育長賞受賞、静岡県JAグループ賞受賞
保健委員会の『保健だより』が第51回学校保健新聞コンクールに入賞
生徒の描いた『富士山』が富士宮市の市議会だより2月号の表紙になった。

1 令和4年度 今年度まとめと次年度の方向性(副校長)

～令和4年度【前期】富士宮分校 学校評価アンケートより～

【教職員学校評価】

・どの項目も評価点が上がり、後期は前期よりも充実しているとの結果だった。

【保護者アンケート】

・防災について保護者の意識で若干ポイントが低い。

生徒、家庭、学校と連携をしながら個別の避難計画の作成につなげていく。

【学校関係者評価】

ア 安心・安全で明るい学校生活を築き、生徒の豊かな心と健やかな体を育む

安心・安全な教育環境

(1) コロナ感染症対策、学習環境の整備と安全点検

・パルスオキシメーターの購入、迅速な対応につながった。

・生徒と共に環境の見直しをしているが、マンネリ化しないよう複数の目でチェックをしていきたい。

(2) 緊急時の教職員の取るべき行動の意識向上

・複数の生徒の場合を想定した訓練を実施、教師が自分たちで考え判断し行動することができた。

・実践的な訓練を重ね、自分から行動できることが大切であると考えている。

(3) 防災防犯学習の充実

・地域の避難所別に分かれ、危険箇所の情報共有ができた また、富士宮北高生徒と共に防災訓練ができた。

・防犯に関して、防犯訓練を実施していきたい。

豊かな心と健康な体

(4) 道徳教育の充実

・今以上に充実させ、生徒の心の成長につなげたい。郷土愛についてゲストティーチャーを招き、サクラエビ、海、山に関わる地域について学ぶ新たな機会もあり有効だった。

(5) 生徒の生徒会活動の取り組み、自治能力の高まり

・生徒会活動が充実した、生徒総会を実施することができた。
・生徒会執行部が提案した行事(球技大会、百人一首大会(運営)、生徒会レク)を実施した。
・生徒の目線で発信することの大切さに気づけた。生徒が企画に関わることが今後の大きな力につながる。
・課題としては、特定の生徒への負担、教師側の準備や計画の必要性が挙げられた。
・『学校のきまり』についても見直しを進めている。生徒と共に時代にあったきまりを模索している。

(6) 表現活動の充実

・校外の作品展示会 14 回、美術作品の力は大きい。富士宮分校の強みにしていきたい。

(7) 健康な体とたくましい心身

・『朝のトレーニング』が充実している。
・自己肯定感が低く行事に参加できない生徒もいる、心もたくましく育てていきたい。

《ア 安心・安全で明るい学校生活を築き、生徒の豊かな心と健やかな体を育む についての意見》

委員 今の富士宮分校の校則はどうなっている？

時代が変わってきている、『学校のきまり』について保護者の意見や対応なども難しさがあるのではないかな。

委員 学習環境の安全点検について、チェック項目が多いとマンネリ化する。

大事なものをチェックする、チェック項目を減らす視点が大切。緊急時の対応訓練について、複数生徒を想定した訓練の取り組み、よいと思う。

指示系統がないと行動できない組織はよくない。役割を決めすぎずにその場で考え判断能力をつけることが大切。個人的には、校則は厳しい方がいいと思う、理不尽でも守らなければならないことがある、そのことが将来的には理不尽なことに向き合い乗り越えられる力につながると思う。

委員 緊急時の対応は、その場でのコミュニケーションが大切。そのためにはある程度最低限の共有を事前にした
り、掲示しておいたりすることが大切。

地域での避難訓練など地域と関わる必要がある。防犯意識をもつことも時代的に必要。

校則については、生徒が考えさせる場面が大切、おしつけではなく、ルールは少ない方がいい。ルールがなくとも必然的な仕組みが大切。

学生時代の体づくりも大切。継続してってもらいたい。

委員 コロナの感染症対策について学校での非接触の体温検知器など安心・安全な環境が整っている。

校則について、カラオケやゲームセンターに生徒同士では行けない。なんで？という思いがある。生徒は、これまでの経緯や理由など知らないと思うので、生徒に理由を説明したり、話し合ったりすることが大切。保健委員会の生徒が作成した保健だよりを楽しみにしている。手書きのおたよりがいい。親御さんも楽しみにしているのではないかな。

委員 校則について自分の人権をどう捉えるか、子どもたちがどう捉えるか、先生たちがどう捉えるか、今後、人権意識を育てるかが大切。

イ 『主体的に社会で生きる人』を目指して、一人一人が成長・発達できる学びの充実を目指す

主体的・対話的で深い学び

- (8) 授業力の向上
- ・外部講師を招聘し研修を行った。
 - ・生徒の実態に応じた授業の実践をしていくために、年間指導計画の見直し等を行った。
- (9) カリキュラムマネジメント推進の意識をもち、個別の指導計画を活用した授業改善
- ・ICTを活用した授業が充実してきた。
 - ・さらに教科と教科を効果的につなげることができるようカリキュラムマネジメントの視点を大切にしていきたい。

キャリア教育

- (10) キャリアパスポートの活用、3年間のつながりのあるキャリア教育について
- ・キャリアパスポート、夢に向かってシート、3年間のつながり系統性を考えたものにしていきたい。
 - ・3年生を対象にスクールロイヤーの講義、教員を対象に校則について話を聞いた。『学校のきまり』について生徒が納得することが必要であり、なぜこのきまりがあるのかを説明できることが大切であると学んだ。

《イ 『主体的に社会で生きる人』を目指して、一人一人が成長・発達できる学びの充実を目指すについて意見》

委員 選挙権の扱いや学習はどうなっていますか。

選挙管理委員会を招聘して講座は行っているが、関心があまりないことが課題。

校長 選ぶ権利は大切、主権者教育を考えていきたい。

委員 『主体的・対話的で深い学び』について、今の高校生、大学生にとって難しさがある。

主体的を個々のレベルに合わせて、自我に合わせて考えていくということが大切。

キャリア教育について、いろいろなことを経験して気付くということを大切にしてほしい。

あえて失敗したり、違うと思うことをチャレンジしたりする3年間にしてほしい。社会に出たときに役立つ。

委員 農園芸班の『宮コロ』について、やったことが形となって評価されることは自信につながる。外部からの評価が大切。

キャリア教育では、社会のいろいろな仕事を知ること、選択肢の幅を広げることが大切、外部からの刺激やつながりを大切にしてほしい。

委員 賞をもらうなど先生方が募集要項を見て生徒に挑戦を促している。先生方の挑戦でもあり、ありがたい。

先日の保護者面談では『夢に向かってシート』を確認した。1年のときは、内容がざっくりしていて曖昧だったが、2年の終わりになったら明確になってきて肉付けができた。生徒の成長、広がりを感じた。

委員 カリマネの視点から、『夢に向かってシート』が充実し、自分でカリキュラムを作るものになり、教育課程と一体化してくるとさらにいい。今までとは違う、新しい概念をもって取り組んでもらいたい。

ウ 共生・共育の充実を図り、家庭・地域とともにある学校づくりを推進する

エ 専門性と指導力を高め合い、チーム力を高め、迅速かつ効率的な業務を行う

共生・共育の充実

- (11) 交流活動の充実
- ・富士宮北高校、幼稚園交流では、生徒の心の育ちを感じている。

関係機関との連携

- (12) 小・中・高等学校への支援について
- ・今年度、高校2校への介入を行った 今後も小・中学校への発信が必要であると考えている。
- (13) 地域人材の活用
- ・地域から15団体の地域資源の活用授業を実施できた、今後も地域から学ぶことを大切にしていきたい。
 - ・ホームページに生徒発信のコーナーができ、発信している。

チームとしての取組

(16) 人権を意識した倫理観の高いチームづくり

・不祥事や交通事故はなかった。自律した行動を引き続きとっていきたい。

《ウ 共生・共育の充実を図り、家庭・地域とともにある学校づくりを推進する

エ 専門性と指導力を高め合い、チーム力を高め、迅速かつ効率的な業務を行う について意見》

委員 地域として協力したい。お祭りに参加してほしい。法被も貸し出したい。

委員 お祭りは、見ていると参加しているとは全然違う。より深いつながりを持ち、富士宮の文化を深めてもらいたい。

委員 年々、地域との交流の場が広がっているように感じる。共生共育の同年代の視点も大切。

小・中学校には随時、必要な場面で発信ができればよいのではないか。

委員 富士宮北高吹奏楽部による音楽コンサートを生徒が楽しみにしていた。うらやましい。いつ来ても学校が明るいとを感じる。

委員 コロナ禍でも行事を大切に、充実していた。

小・中学校に富士宮分校が正しく理解されているか、その捉えが大切である。特に中学校の進路の先生方の理解を深められるとよい。富士宮分校での教育が広く正しく理解されるといい。

2 コンプライアンス不祥事根絶について(副校長先生)

今年度の不祥事根絶の取組について

委員 人権感覚は大切 呼びつけにしない、『さん、くん』をつけることを大切にしてほしい。

委員 ストレスチェックは行ってますか、イライラが募ると不祥事は起きやすい。

⇒県よりストレスチェックを行い、必要があればカウンセラーと面談するなどしている。

委員 どれだけ周知しているか、相互の話し合いの視点が大切。人それぞれ理解する捉え方が違う。

グループワークを行ったり、OJT 研修などでアウトプットすることにより理解が深まる。

委員 定期的に行っていくのが大切なのではないか。

委員 人権をどう捉え、考えていくかが大切、生徒は障害のある自分をどう捉えていくかが今後は大切。

企業でのコンプライアンスはどのようなことを大切にしていますか？

委員 新入社員を対象にした研修、OJT研修、安全教育なども実施している。

社内の代表者が社員に伝達する。アウトプットを大切にしている。

面談を実施し、聞き取っている。記録を残している。

相談できる窓口を掲示したり、明確にしていく。保険会社を利用したコンプライアンス窓口(匿名)もある。

仕事だけではなく、社員教育も大切な視点。働く側も義務を果たすことで権利を得られる。

委員 社内の不祥事に重きをおいている。

ハラスメントの問題について、どこまで、どういうふうにしたら問題になるかを具体的に伝えている。

自分の身を守るための視点で、研修をしている。会社では、お互い様という意識を大切にしている。支え合う体制づくりが必要で、誰でも休むことがある。そのような場面で他人を思いやることに主軸をおく。

入社時に「親を不孝にしたら仕事をやめてもらいます。」と伝えている。親を泣かせたらやめてもらおう。

副校長 人権チェックリストについて反復連打は大切であるがマンネリ化している部分もある。違う切り口、方法もあるのではと感じた。シンプルな言葉が有効である。

校長 人権チェックリスト項目を少なくし、意識を喚起することが大切だと感じた。今は行動チェックだが、チェックリスト項目や質問の仕方(どう考えますか？ABCD？など)を変えたりする方法も有効ではないか。

人権チェックリストを3回実施するのであれば、内容を変化させたらどうか。生徒の実態に応じて答えを求めめるなどの方法もあるのでは。

- 委員 人権に縛られているような感じもあり、先生方、だいじょうぶかな？と心配もある。
- 委員 人権について、標準語で話すこと、話し方、聞き方、言葉遣いを大切にしてほしい。

3 次年度の学校経営について

来年度の重点項目

これまでの目標具現化の柱4本を『守る』『育む』『つなげる』の3本柱に変更
さらに以下の点を加えている。

- AED体験や自転車も含めた交通安全の行動等、自他の命を大切に学習の充実
- 図書活動の充実
- SDGsの充実

《次年度に向けた学校経営について 富士宮分校だから育てられる力についてのご意見》

- 委員 職場実習について
企業見学会を学校で実施したら保護者や教員の理解につながるのではないかと。
東京都の実践によると、少ない日数で多くの職種を経験している。経験を積むことが仕事のマッチングにつながる。卒業後の定着率の高さにもつながる。
- 委員 地域との連携が大切。お祭りに参加してもらいたい。
琴平区民館の清掃ありがたい。生徒たちのあいさつが素晴らしい。区民館がきれいになったとお礼の電話ももらっている。
就労を続けるためには、働く気持ちやどれくらい継続するかが大切。
- 委員 今、分校が大切にしていること実践していること、生徒が目標をもち取り組んでいることを継続することが必要。
このカリキュラムが富士宮分校には大切。
主体的に地域で生きるという視点が大切、地域と共に、心を育ててほしい。
自分で進路を選ぶことが大事だが、変わってもいい、学校はそれをサポートしてほしい。
保護者は、就職について不安を持っている人が多い。卒業後の進路先で大切なのは、継続して働くこと。
継続することで、年々作業量が上がり、戦力になっている。
学校で企業ガイダンスなども実施するとよいのではないかと。
- 委員 学校の今年度の評価を次年度につなげようとする姿勢が大事。
読書活動、読解力に力を入れることは大切。
会社で卒業生を受け入れているが、学校側のアフターケアありがたい。支援学校の強みであると思う。SDGsの視点も大切であり、今後は持続可能な生活を意識していくことが大切。
様々なことを、知る、体験する学校があることが大切。
- 委員 進路の選択肢が少ないと感じることもある。地域に出て学ぶ機会を増やしたらどうか。
生徒にとっていろいろな経験を積ませることが大切。その先の人生経験にもつながる。
今回、PTAとして関わることで学校を知ることができた。学校の取り組みを発信してほしい。保護者が話を聞く場がもっとあるといい。
- 委員 富士宮分校の魅力をどんどん発信してほしい。年間指導計画の見直しも継続してほしい。カリキュラムマネジメントの視点から、行事、学習設定、1人1人の学び方について考えてほしい。
『働く力、暮らす力、生きる力、学ぶ力』をつける。
さらに、学力観や、言葉も大切、自分で考える、思考することも大事
インクルージョンの視点からも、中学校からの接続、切れ目のない支援、富士宮分校を正しく理解してもらう取り組みに力を入れ、ぜひ進路担当への発信してほしい。

- 副校長 富士圏域のセミナーで、障害者が会社の『戦力』として活躍できるかという言葉が印象に残った。生徒が3年間でどのように体験して進路につなげいくか、先生たちの考え方を変えていくことも大切である。発想の豊かさも必要。生徒には、会社の中で役に立つ、必要とされる人になってもらいたい。
- 委員 地域の新聞には高校紹介など記事が出ているが富士宮分校はどうなっていますか？
⇒ 年間で行事や取り組みを記事にしてもらっている。美術特集なども組んでもらった。
学校紹介として取材してもらえればよいのでは。
- 委員 学校評価の方法について、全員が全ての質問に答えている形なので、自分が関わっていない部分で評価しにくい部分もあるのでは。学校評価がより機能する評価のやり方があるのではないか。
分掌の評価もあり、多くの評価を実施している印象がある。
企業の評価はどうなっていますか？
- 委員 人事評価は部署ごと実施している。個別評価については普段から話をしている。
- 委員 行動評価、数値評価(数字、事故件数)をしている。面談したらコメントを文字で残す。
- 校長 学校は様々な評価を実施、行動目標を設定し細やかである。PDCAサイクルに基づいてはいる。

閉会の言葉・副校長

多くの意見を頂き、勇気もらった。支えてもらっていることを感じた。来年度につなげていきたい。